

浦安市未就学児の保育・教育環境のあり方  
基本方針

(概要版)

令和3年3月

浦安市

# I 章 取組の概要

## ○趣旨

- 働き方の多様化等に伴う保育ニーズの増加、幼稚園・認定こども園の園児の減少など、未就学児の幼児教育・保育をめぐる環境が転換期を迎えている中で、将来にわたって多様化する保護者のニーズに対応できるよう、また持続可能な財政運営が図れるよう、未就学児を対象とした事業全体での現状と課題を整理し、今後の方向性、及びその実現に向けた具体的な手法について検討を行います。

# II 章 保育・教育環境の現状分析

## 1. 保育・教育施設の現状

### 【客観的な事実】

- 保育園では定員に占める利用者数の比率が 90.4%（幼稚園等の比率は 65.2%）。

### 【明らかになった課題】

- 保育園がひっ迫している。逆に幼稚園等は余剰感あり。

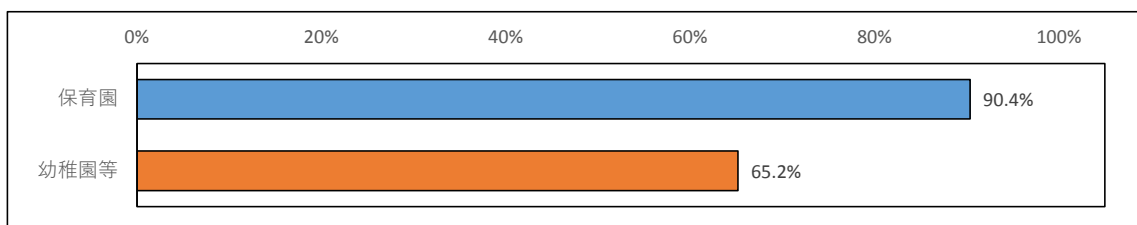
### 【客観的な事実】

- 待機児童は近年減少傾向にあるが、2020年4月現在で34人いる。

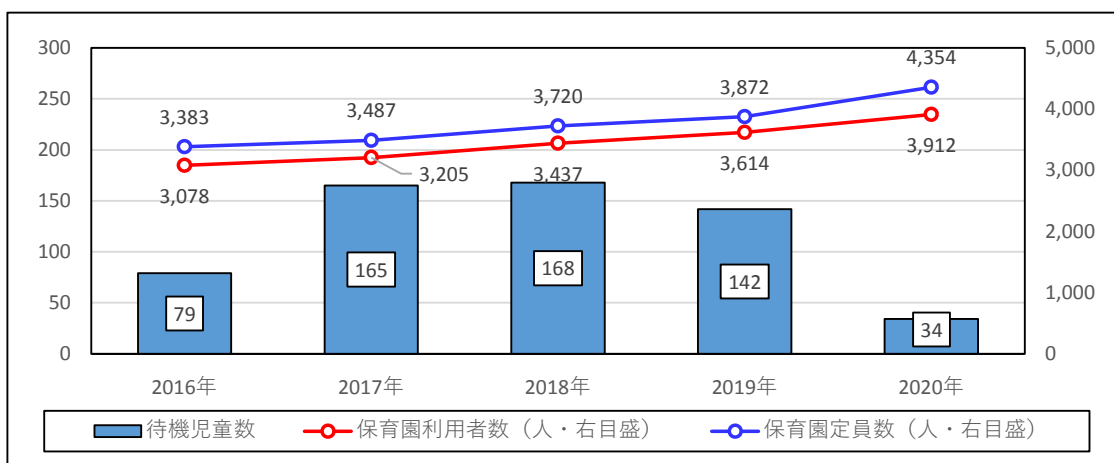
### 【明らかになった課題】

- 待機児童は一定数存在している。
  - ・ニーズに対応するための保育園の定員数を増やしているが、保育園の利用者数は右肩上がりて増加を続けており、その結果待機児童が発生。

### ◇保育・教育施設の定員数に占める利用者数の比率



### ◇保育園の利用者数・定員数と待機児童数の推移（単位：人）



## 2. 保育・教育施設の質的な満足度

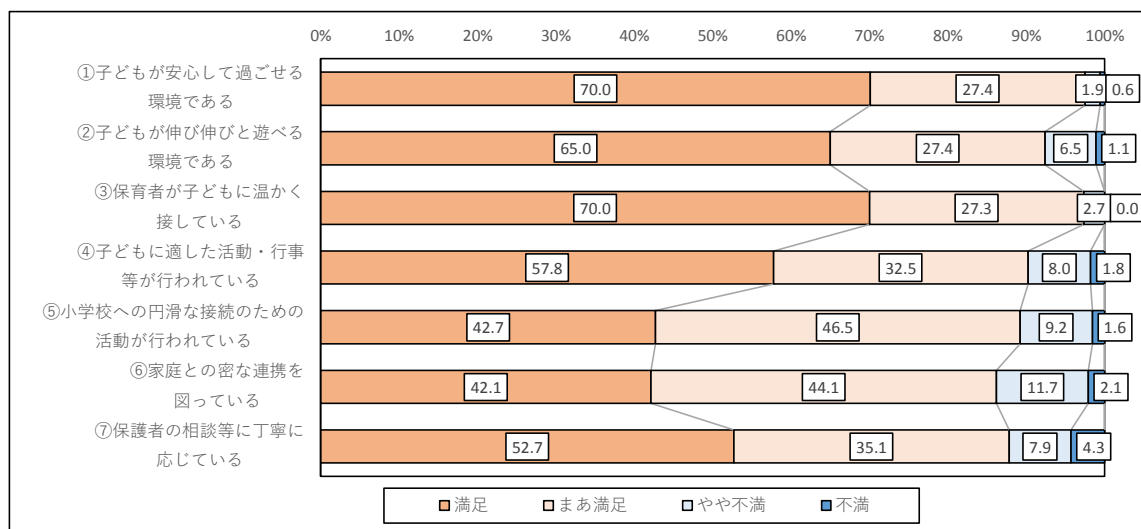
### 【客観的な事実】

○施設の質的なニーズの満足度は概ね良好。ただし一部の項目で「不満」との回答が1割以上あり。

### 【明らかになった課題】

○「家庭との密な連絡」、「保護者の相談等への対応」などで不満度がやや高い。

### ◇保育・教育施設の質的な取組に関する満足度



## 3. 保育・教育施設の立地に関するニーズ

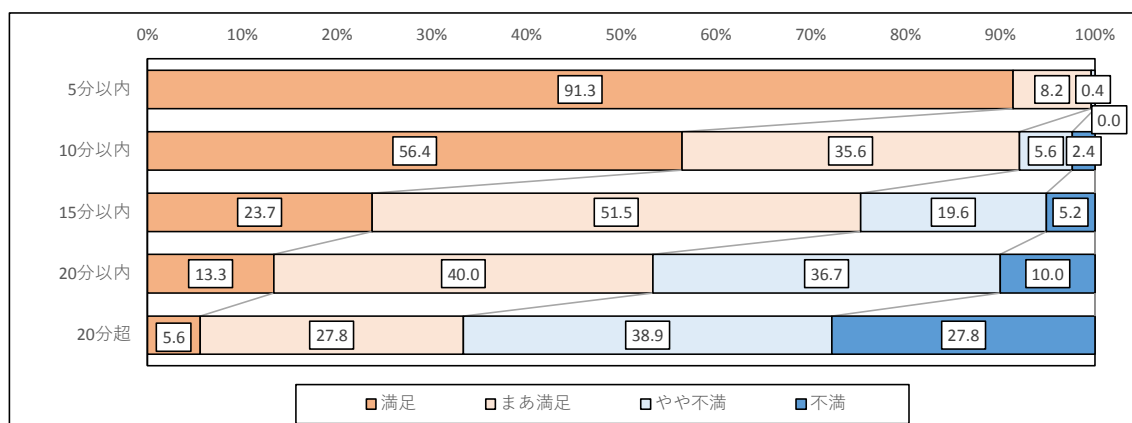
### 【客観的な事実】

○通園時間 10 分以内で「不満」と感じる比率（「不満」+「やや不満」）は 8.0%。  
15 分以内で 24.8%、20 分以内で 46.7%、20 分超では 66.7%。

### 【明らかになった課題】

○「施設が自宅から近いこと」へのニーズは高く、15 分超だと不満度が高くなる。

### ◇通園時間別満足度



#### 4. 地域子ども・子育て支援事業の満足度

##### 【客観的な事実】

○病児保育、病後児保育の不満度が相対的に高い。

(「不満」+「やや不満」の比率：それぞれ26.0%、26.1%)

##### 【明らかになった課題】

○病児保育、病後児保育事業の改善が必要。

##### 【客観的な事実】

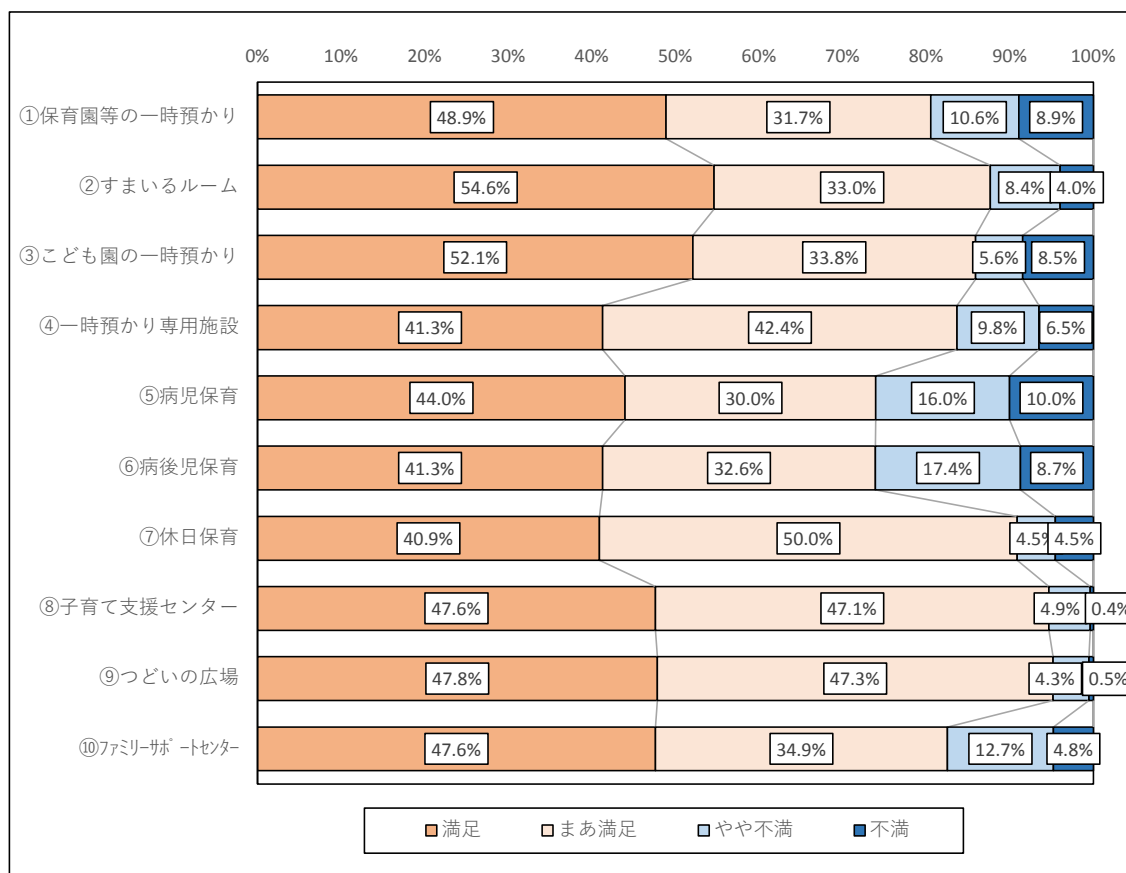
○各事業で、相対的に比率が高い不満の理由は以下の通り。

- ・「病児保育」「病後児保育」「休日保育」「ファミリーサポートセンター」  
⇒「手続きの複雑さ」
- ・「すまいるルーム」「子育て支援センター」「つどいの広場」⇒「自宅から遠い」
- ・「保育園等の一時預かり」⇒「予約が取れない」

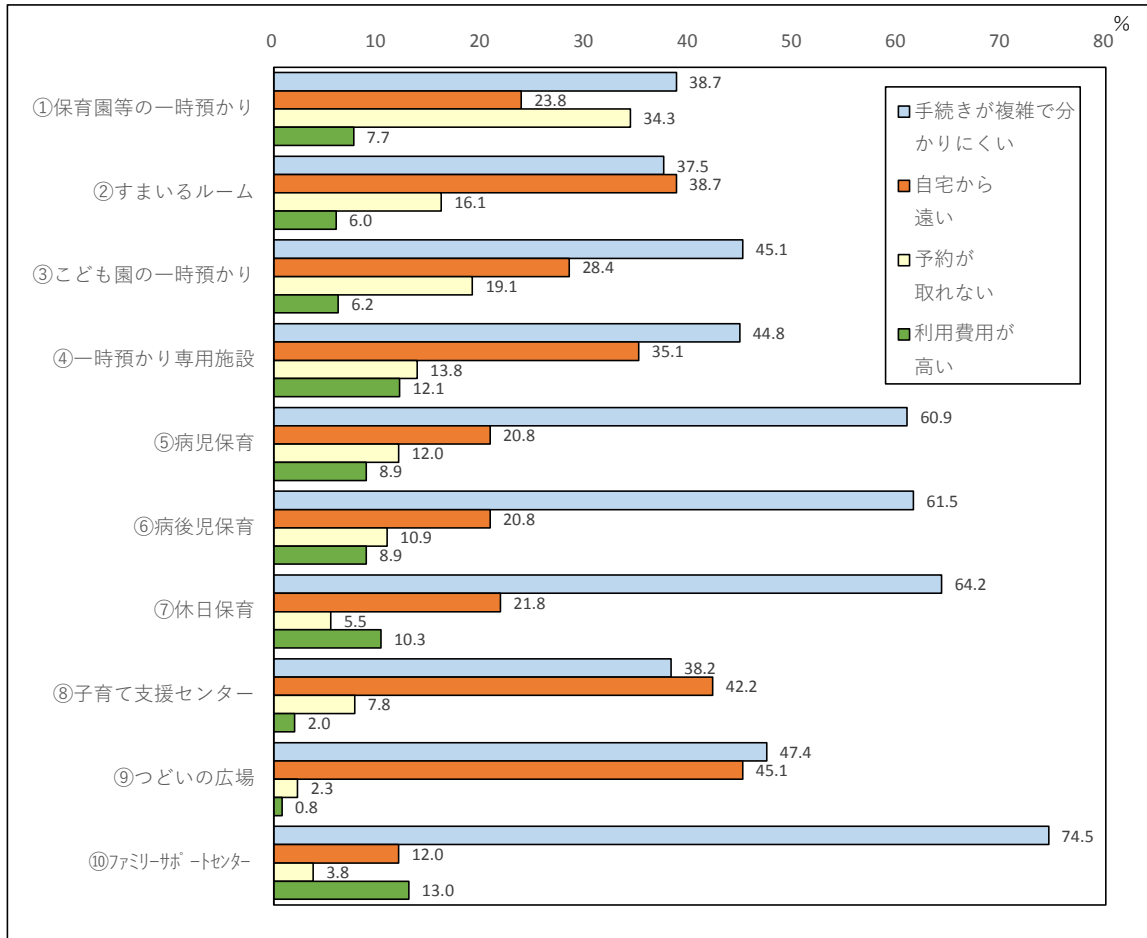
##### 【明らかになった課題】

○事業ごとに不満の理由は異なっており、個別に対応していく必要がある。

#### ◇地域子ども・子育て支援事業の満足度



◇地域子ども・子育て支援事業を不満と感じる理由（％、複数回答）



【参考】地域子ども・子育て支援事業の施設数・利用者数（令和2年10月現在）

施設の区分	施設・サービス	施設数（施設）				R元年度 年間のべ利用者数（人）			
		全体	元町	中町	新町	全体	元町	中町	新町
子どもを預かる施設	保育園等の一時預かり	10	4	3	3	11,240	4,493	4,158	2,589
	すまいるルーム・アリエ	4	2	1	1	20,973	10,533	4,521	5,919
	こども園の一時預かり	11	6	4	1	12,985	6,572	5,582	831
	一時預かり専用施設	2	0	1	1	4,413	0	2,150	2,263
	病児保育	2	0	2	0	1,098	0	1,098	0
	病後児保育	2	1	1	0	75	27	48	0
	休日保育	2	1	1	0	277	31	246	0
	ファミリーサポートセンター	—	—	—	—	5,347	—	—	—
親子でつどえる施設	子育て支援センター	9	4	3	2	24,891	15,377	6,389	3,125
	つどいの広場	2	1	0	1	7,158	4,721	0	2,437

## 第三章 保育・教育環境の将来ニーズ量の算出

### 1. 保育・教育施設の利用ニーズ

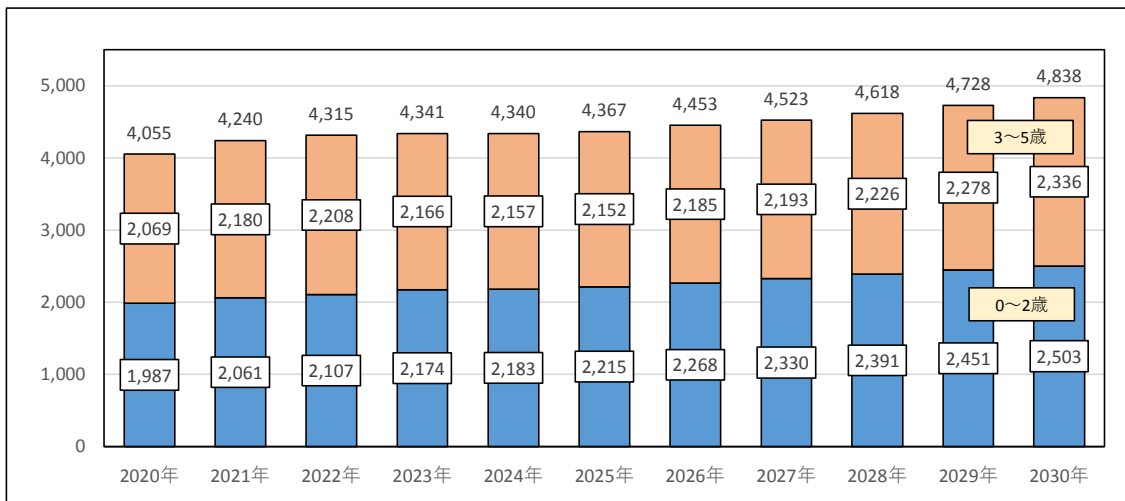
#### 【客観的な事実】

- 市全体では、保育園のニーズ量は増加基調。幼稚園等のニーズ量は横ばい圏内。
  - ・保育園へのニーズ量は増加し、2029年以降定員数を上回る見込み。
  - ・幼稚園等は、2030年までニーズ量が定員数を下回って推移。
- 3地域別にみると、保育園は元町、新町でニーズ量が定員数を上回る時期がある。幼稚園等は、3地域とも2030年までニーズ量が定員数を下回って推移。

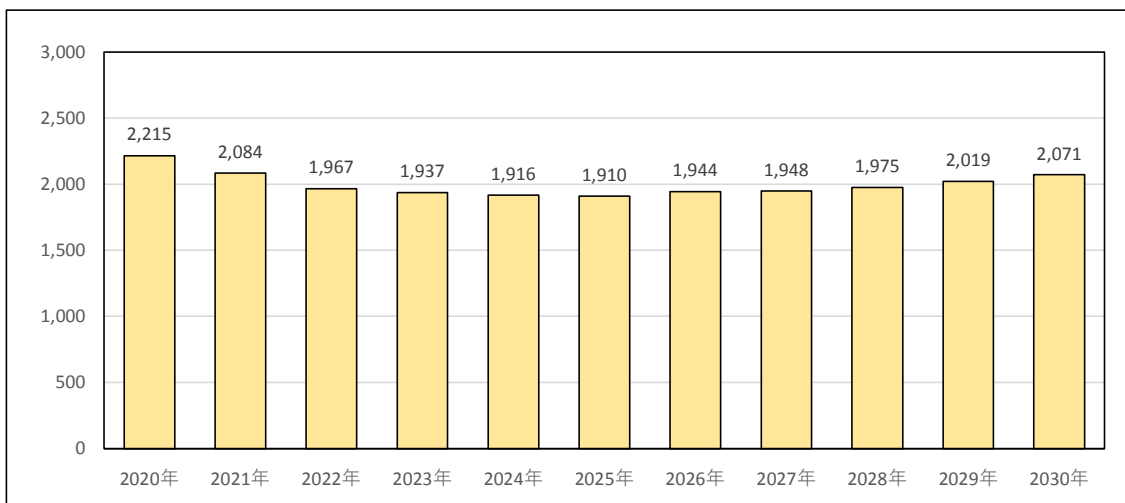
#### 【明らかになった課題】

- 保育園の不足に対応していく必要がある。
- 幼稚園等の余剰に対応していく必要がある。
- 地域ごとに状況は異なるため、各地域別に対応していく必要がある。

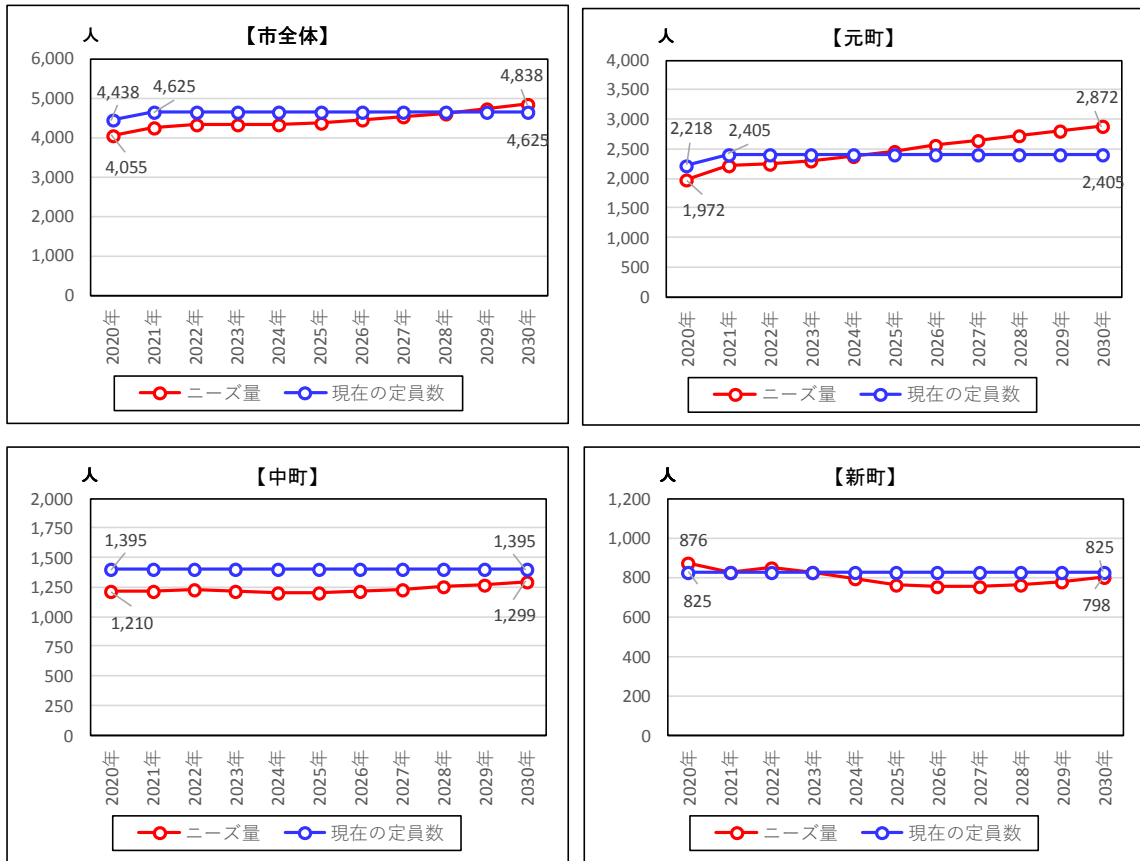
◇保育園の園児数の推計結果（単位：人）



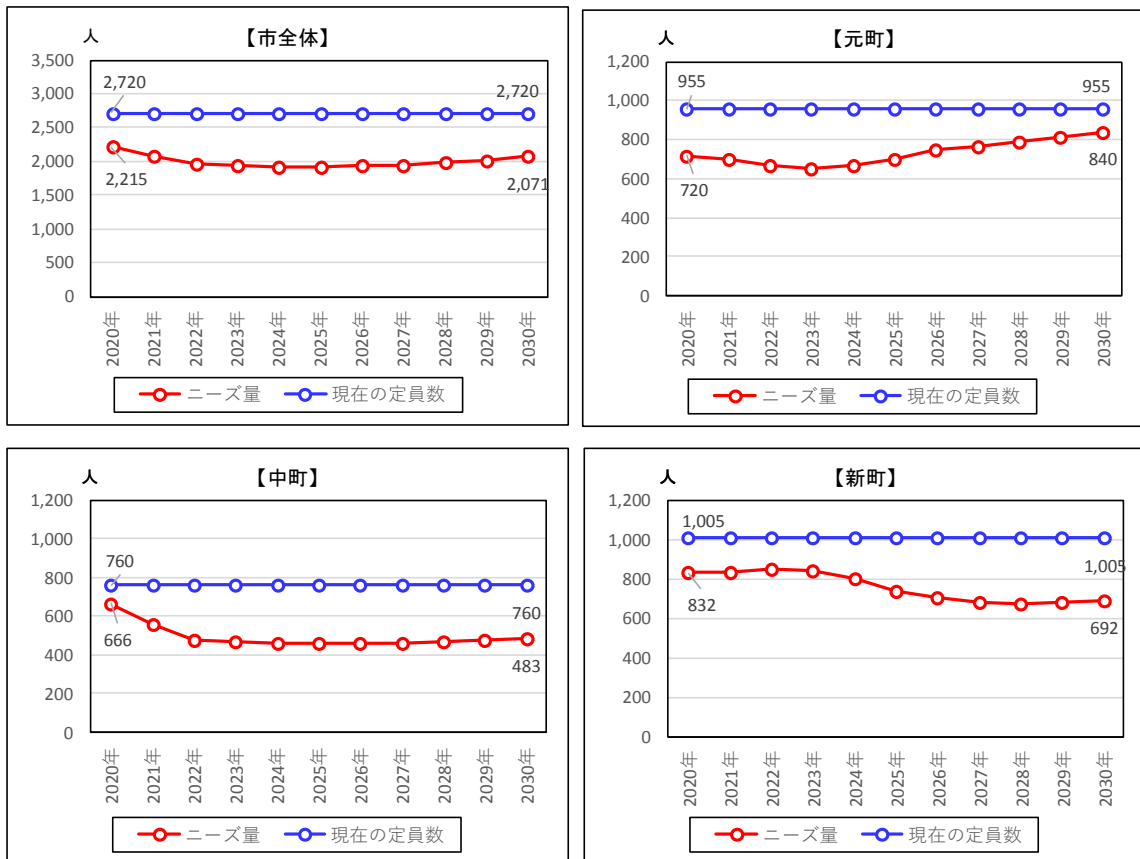
◇幼稚園等の園児数の推計結果（単位：人）



◇保育園のニーズ量と定員数の差の推移（市全体・3地域）（単位：人）



◇幼稚園等のニーズ量と定員数の差の推移（市全体・3地域）（単位：人）



## 2. 地域子ども・子育て支援事業の利用ニーズ

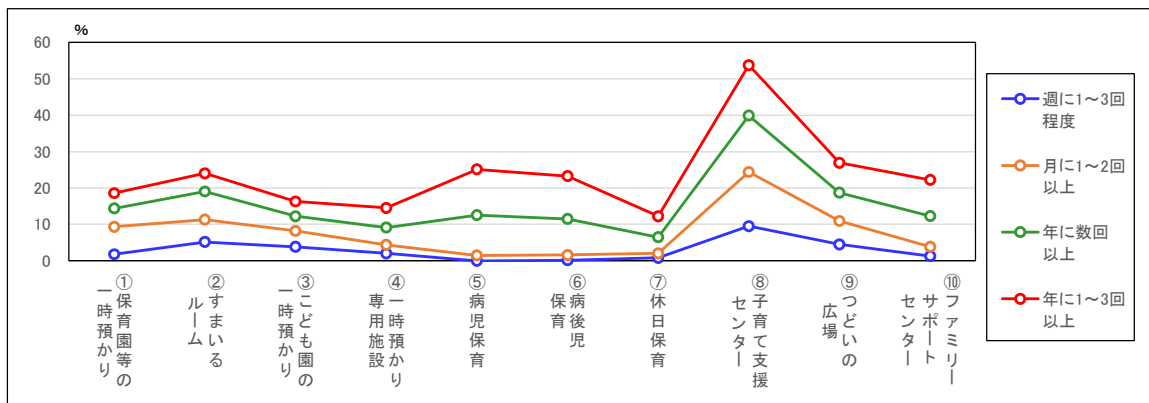
### 【客観的な事実】

- 各事業のうち、今後の利用意向が最も高いのは子育て支援センター。その利用頻度は週に1~3回程度が9.5%、年に1~3回以上まですべてを含めると53.7%。
- 推計によると、今後の事業の利用ニーズ量は、子育て支援センター、すまいるルーム、こども園の一時預かりの順が多い。
- 病児保育、病後児保育、ファミリーサポートセンターは、現在の利用は少ないが、今後ニーズが高まる見込み。

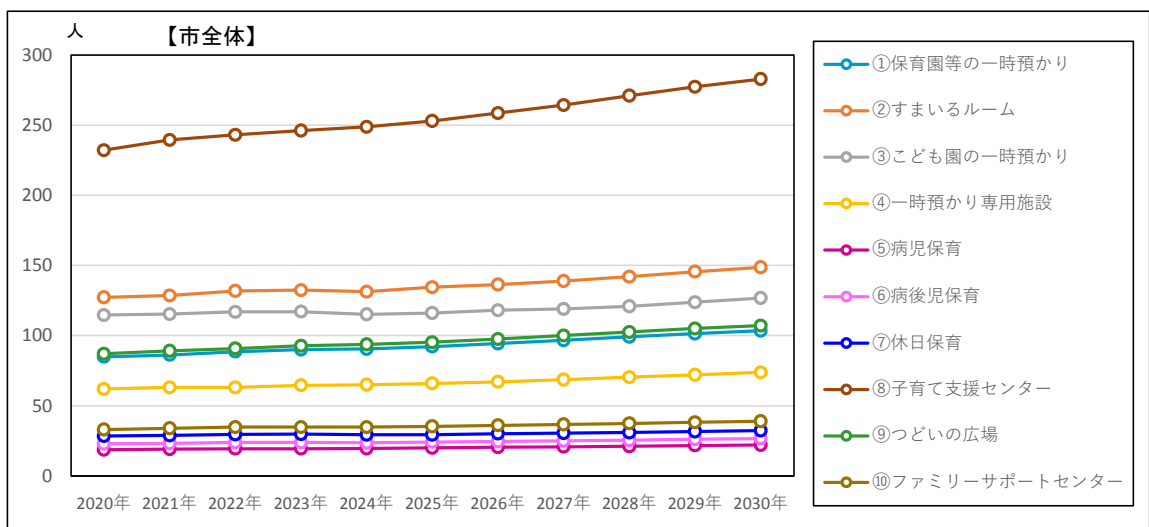
### 【明らかになった課題】

- ニーズが高い事業の機能充実が必要である。
- 現在顕在化していないニーズに対応していく必要がある。
- 地域ごとに、ニーズが高い事業を充実させていく必要がある。

### ◇子ども・子育て支援事業の今後の利用意向（頻度別・積上げ）



### ◇市全体の子ども・子育て支援事業のニーズ量（1日あたり利用者数）（単位：人）





## IV章 保育・教育施設の運営コストの分析

### 1. 公立保育園・幼稚園等の運営コストの比較

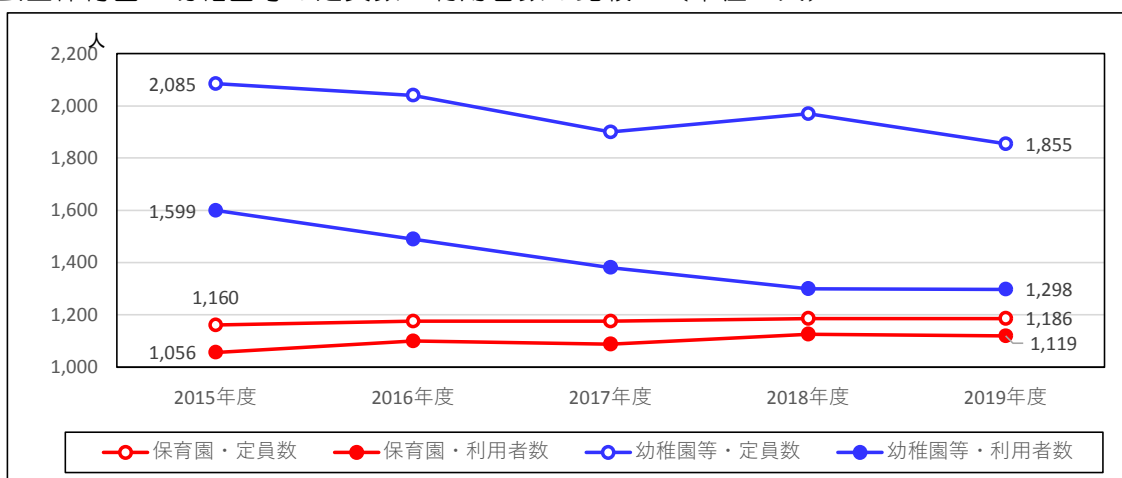
#### 【客観的な事実】

- 定員数・利用者数は、公立保育園は微増傾向、公立幼稚園等は減少傾向。
- 利用者数あたりの歳出額は、公立保育園はほぼ横ばい、公立幼稚園等は増加傾向。

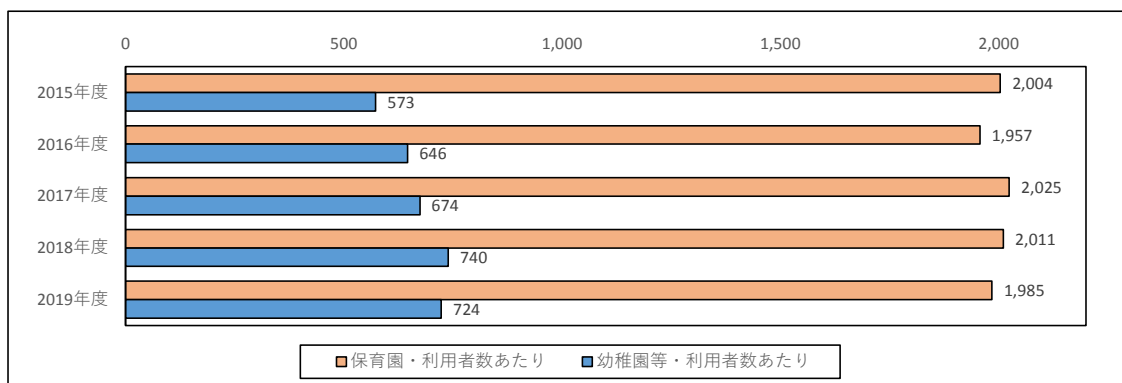
#### 【明らかになった課題】

- 利用者数の減少を背景に、公立幼稚園等では利用者数あたりの歳出額が増加傾向。
- 特に給料、職員手当等、賃金など、人件費でその傾向は顕著。

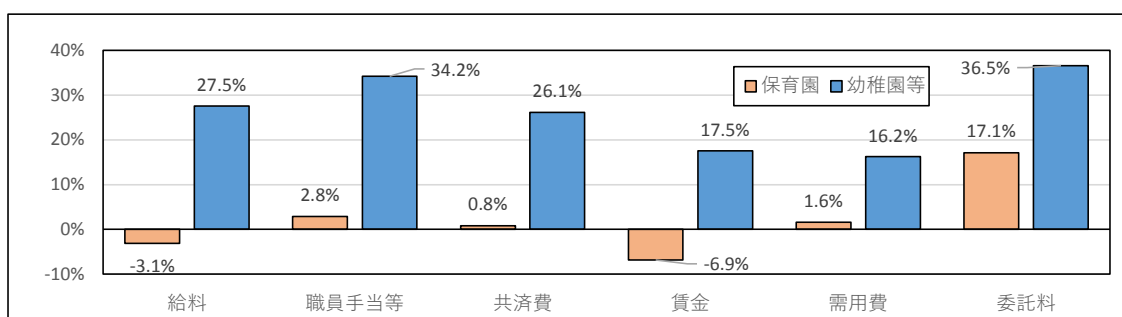
#### ◇公立保育園・幼稚園等の定員数・利用者数の比較（単位：人）



#### ◇公立保育園・幼稚園等の利用者数あたり歳出額の推移（単位：千円）



#### ◇公立保育園・幼稚園等の利用者数あたり歳出額（費目別）の過去4年間の増減率



## V章 今後の未就学児の保育・教育環境のあり方

・Ⅱ章～Ⅳ章で分析してきた内容の中で、主な客観的な「事実」を抽出し、それぞれの「事実」から明らかになった「課題」を明示したうえで、それらの課題を解決するための「今後の方向性」

という切り口でまとめていくと、以下の表のようになります。「今後の方向性」は5つに集約できます。

◇「客観的な事実」・「課題」・「今後の方向性」の整理

No.	各種取組から導き出された客観的「事実」(例)	明らかになった「課題」	課題を解決するための「今後の方向性」【集約】
	原因	結果	結果
①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園のニーズ量は増加し、2029年以降定員数を上回る</li> <li>・幼稚園等は、2030年までニーズ量が定員数を下回って推移</li> </ul>	<b>将来における保育・教育施設の量的なミスマッチ</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の不足</li> <li>・幼稚園等の過剰</li> </ul>	<b>将来を見据えた的確な保育・教育施設の整備</b>
②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「施設が自宅から近いこと」が重視されている</li> <li>・自宅から15分以上の施設に通う子どもの保護者の不満度が高い</li> </ul>	<b>市民ニーズに合致した施設配置の必要性</b>	<b>保育・教育施設の適正配置の検討</b>
③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育・教育施設の質的ニーズへの満足度は概ね良好</li> <li>・ただし、「家庭との密な連絡」などで不満の声はやや多い</li> </ul>	<b>保育・教育施設における質の維持・向上</b>	<b>保育・教育施設における更なる質の向上</b>
④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員手当等、給料などの経費が増加している</li> <li>・利用者数あたりの歳出額が、公立幼稚園等は増加傾向</li> </ul>	<b>コスト増加の抑制の必要性</b>	<b>効率的な施設運営の推進</b>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病児保育、病後児保育、休日保育は、現在の利用は少ないが、潜在的ニーズは高い</li> </ul>	<b>潜在的ニーズへの対応強化の必要性</b>	<b>多様なニーズに対応する地域子ども・子育て支援事業の充実</b>

- ・前ページで提示した5つの「今後の方向性」を実現していくために、市として取り組んでいく具体的方策を以下に提示します。これらの方策の展開にあたっては、それぞれバラバラに取り組んでいくのではなく、一体的に関連付けながら実施していきます。

◇「今後の方向性」を実現していくための「具体的方策」

具体的方策

**方向性1 「将来を見据えた的確な保育・教育施設の整備」**

- ① 保育園のニーズ量や地域の状況に合わせた定員の見直し
- ② 公立幼稚園・認定こども園の統合の検討
- ③ 保育・教育施設の老朽化対策

**方向性2 「保育・教育施設の適正配置の検討」**

- ① 施設の統合時における利用者への配慮
- ② 公立幼稚園・認定こども園の適正配置の検討

**方向性3 「保育・教育施設における更なる質の向上」**

- ① 家庭との連携の充実
- ② 小学校への円滑な接続のための取組の推進
- ③ 施設種を問わない質の高い保育・教育の提供

**方向性4 「効率的な施設運営の推進」**

- ① 公立幼稚園・認定こども園の効率的な施設運営の推進
- ② 市財政負担軽減の検討

**方向性5 「多様なニーズに対応する地域子ども・子育て支援事業の充実」**

- ① 一時預かり事業の内容の見直し
- ② 病児保育、病後児保育、休日保育等の利用しやすい仕組みの検討
- ③ 地域子ども・子育て支援事業の認知度向上に向けた取組の推進
- ④ 地域ニーズに応じた地域子ども・子育て支援事業の推進

◎ 地域ごとのニーズを満たした質の高い保育・教育環境の提供

浦安市未就学児の保育・教育環境のあり方  
基本方針

(概要版)

令和3年3月  
浦安市